



「みのかも文化の森」の学校活用

～博物館で学び続ける人を育てる～

1. みのかも文化の森とは

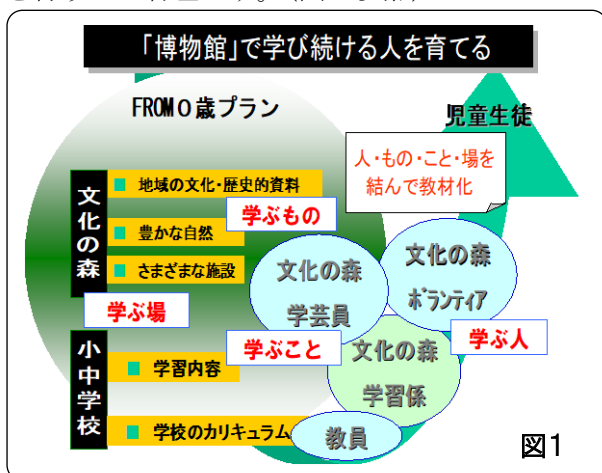
美濃加茂市のほぼ中心に位置する「みのかも文化の森/美濃加茂市民ミュージアム・教育センター」（以下：文化の森）は、2000年（平成12年）10月に開館しました。設立前から学校教育との連携・市民参画・地域づくり・自然との共存をコンセプトに、各学校の年間指導計画に位置付いた授業、体験学習を行う場として、支援態勢をつくってきました。



森の音作り講座を開催する学習支援ボランティア

2. 学校の授業を「みのかも文化の森」で行う学校活用

「文化の森」という博物館の「人・もの・こと・場」を活かした様々な学習を学校とともに立案し、「森の学校」として、美濃加茂市が掲げる「FROM 0歳プラン」にたった、ミュージアムでの学習を行うのが特色です。（図1参照）



(1) 学習の対象

学校活用は、市内小・中学校の年間指導計画に位置付けられ、全小・中学校が活用しています。

その他、活動を希望する保育園、市外の学校も受け入れています。

2025年度は総来館者数約50,700人、うち学校活用（幼・保を含）は5,603人でした。今年度も感染症の状況を伺いつつ、延べ50人のボランティアの方に参加していただくことができました。（2026年2月末現在）

(2) 「森の学校」という考えを持ったミュージアム

文化の森にある「本物」。例えば、四季おりおり姿を変える自然、太古の人々が住んでいた証である遺跡や遺物、自然と一体化した彫刻、いろいろな経験や知識のある人々。それらの素材を使い、学校ではできないことを体験します。体験を通じて感じたことそのものが学習であると考えます。おもわず口をついて出たつぶやき、友だちやボランティア、学芸員と話したことやその人々との関わり、これらの積み重ねを大切にしていきます。そのような新しい学習や教育のあり方を築いていきたいと考えます。

「文化の森」は、市内全ての学校からバスで片道20分以内の距離にあります。「文化の森」にある豊かな自然や博物館資料及び設備は、児童生徒が普段学校ではできない、本物から学習することを可能にしたといえるでしょう。加えて送迎のバスを手配し、ほぼ学校と同じように過ごせます。また「文化の森」は、ミュージアムと教育センターとの複合施設であり、他の博物館にはない学校とのネットワークを結んでいます。

(3) 学校とミュージアムが一緒につくりあげる学習

教科の授業としてカリキュラムの中に位置付け、見学だけで終わらない学習活動を実現し、継続的な学習の機会を考えていきます。文化の森の「人・もの・こと・場」を活用し、「本物」との出会いを活かした「ここでしかできない活動」を通して得られる気付きや感動を大切に、深い学びを目指しています。

- 文化の森の「人」……歴史・考古・美術・民俗・自然史の学芸員も授業内容に関連する資料を学習係と一緒に準備したり、講師として児童生徒に話をしたりします。また、学習支援ボランティアは、活用中の安全の見守りや声かけ、自身の経験を生かして講師としても関わります。
- 文化の森の「もの」…常設展示室の展示物資料や収蔵資料についても、可能な限り学習活用で使用していきます。博物館で学ぶからこそその「本物」に触れる機会です。
- 文化の森の「こと」…常設展示室や企画展示室の「もの」には、その「もの」に与えられた情報（解釈）と一緒に提示されています。博物館の価値観ともいえるそれらの「こと」を、どのように感じ、受け止めるかということも文化の森での活用における大切な要素の一つです。
- 文化の森の「場」……文化の森には、博物館施設としての展示室はもちろんのこと、自然観察の森や遺跡、昔の養蚕民家を復元した生活体験館（まゆの家）など、文化の森ならではの学習ができる「場」がたくさんあります。その「場」の空気（雰囲気）の中で体験するからこそ感じることも、気付くことができることは、子どもたちの記憶にも深く刻まれていくようです。

(4)学習の効果を高めるためのシステム

○学習係の配置

学校との活動日程調整や活動準備など、児童生徒の文化の森活用に関わる業務を担当する「学習係」があります。学習係のスタッフは教員免許所有者や教員経験者、学芸員などが配置されています。

○チームティーチングと事前の打ち合わせ

活用の前に学習係と担任の教員が必ず顔を合わせての打ち合わせを行います。博物館側のひとりよがりな活動とならないよう、学校側がお客様にならないよう、各学校や児童生徒の実態に合わせた活動内容とするために、また、学校での事前・事後の学習とつながりのある活動とするためにも、事前の打ち合わせを大切にしています。

児童生徒の学習の際には、「ボランティア」（学習を支援する学習支援ボランティア、昔ながらの料理を伝える伝承料理の会、昔の道具や体験を伝える生活体験ボランティアなど）がT4の立場で授業に参画します。児童生徒は、様々な年代のボランティアからいろいろな知識や技術、生き方を学びます。同時にボランティアは、児童生徒と一緒に活動することで、今までにない発見や、新しいことに関心を持つ機会が増えています。ボランティア自身の生きがいにもつながっています。

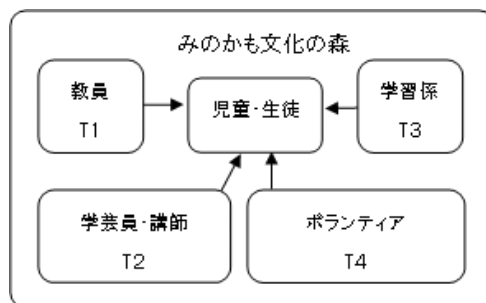
○文化の森と市内小中学校とをつなぐ「バス」を市の予算で手配しています。

○市内の小中学校の教員（各校より1名）と文化の森の職員が参画する「文化の森活用委員会」があります。学習活動の工夫や運営を話し合います。

○『みのかも文化の森 活用の手引き・活用実践集』を作成しています。実践プログラムや活動の様子、小中学校の教員による振り返り、子どもたちのアンケート結果などを掲載しています。

○文化の森HPの「活用の様子」（学ぶ・楽しむ>学校向けプログラム>「みのかも文化の森」の学校活用）には、活動した学校の様子の写真などを掲載しています。

図2:文化の森でのチームティーチング



3. 文化の森のねがい

文化の森で行われる学校活用は、美濃加茂市の子どもすべてが等しく得ることができる「博物館への入り口」です。文化の森や他の地域社会・人々とふれあうことは、未来を担う「美濃加茂市民」を育てることにもつながります。そして、生涯にわたって博物館とかかわることができる文化的な市民を育てることにもつながると考えています。文化の森の活動が、子どもたちの豊かな心を育てる一助になればと思います。